

事業報告書

1. 一般概況

(1) とうもろこしの国際需給の動向

2014/15年度の生産量は、米国、EUで好天に恵まれ米国では2年連続の豊作となったが、ブラジル、中国、南アフリカ等で減少し、世界全体では前年度並みの9億8,966万トンと見込まれている。消費量は、世界的な豊作による価格安により、主要国で増加が見込まれることから、世界全体では、対前年度比2.5%増の9億7,652万トンと史上最高が見込まれている。この結果、期末在庫量は対前年比7.6%増の1億8,528万トンで、前年度を0.9ポイント上回る19.0%と見込まれている。

米国では、作付面積は対前年度比5.0%減の3,666万haであったが、単収が史上最高の10.73トン/haとなった結果、生産量は対前年度比2.8%増の3億6,110万トンと見込まれている。需要量は、燃料用エタノール向け需要及び飼料向け需要が増加し、対前年度比3.1%増の3億214万トンと見込まれている。この結果、期末在庫量は対前年度比44.2%増の4,514万トン、期末在庫率は13.0%と見込まれている。

(2) 国内の配合飼料生産の動向

平成25年度の配合飼料生産量は2,356万トン、対前年度比99.5%となっており、全ての畜種（養鶏用、養豚用、乳牛用及び肉牛用）で微減した。

平成26年度4月～1月の配合飼料生産量は1,926万トン、対前年同期比97.6%となっており、畜種別の内訳では、養鶏用が100.6%と微増したものの、養豚用が93.6%、乳牛用が96.2%、肉牛用が97.1%と減少した。

(3) 価格の動向

① とうもろこしのシカゴ相場

とうもろこしのシカゴ相場については、平成26年4月以降、ウクライナの政情不安、米国産新穀の作付けが遅れたことから、5月上旬には510セント/ブッシェル台まで上昇した。その後、米国で良好な天候が続いたことから、7月中旬以降、360セント/ブッシェルまで低下した。さらに、9月中旬以降米国の生産量が史上最高の生産量の見通しとなったことなどにより、320セント/ブッシェル台まで低下したが、その後、悪天候による収穫遅れへの懸念などから値上がりし、平成27年3月現在は380セント/ブッシェルで推移している。

② フレート

米国ガルフ/日本間の海上運賃は、中国向けの大豆、鉄鉱石の需要が増加したことから、平成25年12月に60ドル/トンを超える水準まで上昇した。その後、船舶の需給緩和により軟調に推移し、平成26年7月中旬には40ドル/トン台まで値を下げた。9月以降は、米国産新穀の輸出や中国向け鉄鉱石の輸送需要が堅調なことから、一時47ドル/トン台まで上昇したが、平成27年1月以降、世界経済の先行き不透明感やデフレ圧力の高まり等により、中国や欧州の景気が冷え込み、輸送需要の伸び率が急低下していることから、2月のガルフ穀物運賃は6年ぶりの30ドル/トン割れとなっている。

③ 為替レート

平成 26 年 2 月以降、1 ドル 101 円から 103 円前後のレンジで推移していたが、8 月下旬に米国の住宅関連指標が良好であったこと、さらに米国の利上げ時期が早まるとの見方などから円安が進み、9 月末に約 6 年ぶりの 110 円近辺まで進行した。その後、10 月 31 日に日銀が追加の金融緩和を発表し、円安が止まらず、衆議院の解散の発表もあり、118 円の水準となった。さらに、11 月の米国の雇用統計が市場予想を大きく上回る結果となり、12 月には、121 円まで円安が進行した。平成 27 年 3 月現在は、121 円前後で推移している。

④ 配合飼料価格

配合飼料価格については、平成 26 年度第 1 四半期は、米国産の輸出需要が旺盛であり、ウクライナの政情不安等によりシカゴ相場は上昇したことから、トン当たり 1,300 円引き上げられた。第 2 四半期は、米国産新穀作付けが悪天候により遅れたことから、シカゴ相場は上昇した。大豆粕は、米国産旧穀大豆の期末在庫が 4% を割り込み市場最低の水準であること、南米産新穀大豆の収穫が降雨により遅れ、生産量減少が懸念されたため、シカゴ相場は上昇したことからトン当たり 800 円引き上げられた。

第 3 四半期は、米国産とうもろこしは史上最高の生産量が見込まれ、収穫が順調に進めば、期末在庫率も緩和すること等により、シカゴ相場は下落したことから、トン当たり 2,650 円引き下げられた。第 4 四半期では、とうもろこしは米国の史上最高の豊作見通しを受けて下落したが、悪天候による収穫遅れの懸念等から上昇し、為替が米国の金融緩和の終了、日銀の追加金融緩和の実施などにより急速に円安が進んだことから、トン当たり 2,550 円引き上げられた。

2. 入会預り金の状況

平成 26 年度においては、会員及び会員からの入会預り金に異動はなかった。平成 27 年 3 月 31 日現在の入会預り金の状況は、次のとおりである。

会 員 別	入会預り金口数	入会預り金額
	口	千円
(独)農 畜 産 業 振 興 機 構	8,000	800,000
(一社)全国配合飼料供給安定基金	1,268	126,800
(一社)全国畜産配合飼料価格安定金	113	11,300
(一社)全日本配合飼料価格畜産安定基金	1,613	161,300
全 国 農 業 協 同 組 合 連 合 会	798	79,800
全 国 酪 農 業 協 同 組 合 連 合 会	39	3,900
全 国 畜 産 農 業 協 同 組 合 連 合 会	1	100
全 国 開 拓 農 業 協 同 組 合 連 合 会	1	100
日 本 養 鶏 農 業 協 同 組 合 連 合 会	1	100
(協)日 本 飼 料 工 業 会	1,166	116,600
計 10 団 体	13,000	1,300,000

3. 業務運営

(1) 配合飼料価格安定対策事業（公益目的事業1）

① 交付契約数量

平成26年度の各契約基金との異常補填交付金交付契約数量は、24,116,065トンであり、基金別では、全国配合飼料供給安定基金6,975,437トン、全国畜産配合飼料価格安定基金1,427,099トン、全日本配合飼料価格畜産安定基金15,713,529トンであった。

なお、9月に各基金間移動に伴う交付契約数量の変更を行った結果、全国配合飼料供給安定基金6,963,836トン、全国畜産配合飼料価格安定基金1,424,612トン、全日本配合飼料価格畜産安定基金15,727,616トンとなり、総交付契約数量は24,116,064トンとなった。

② 異常補填交付金交付事業

平成26年度においては、補填の発動がなかったことから、異常補填交付金の交付はなかった。

③ 平成20年度通常補填財源貸付事業及び特別交付金交付事業

通常補填財源貸付事業においては、3基金から契約に基づき2回（10月、1月）計9,000,000千円が償還され、これまでの機構への償還額合計は、90,000,000千円となり、全額償還された。

なお、25年度において一部繰上償還された9,000,000千円をもって金融機関に2回（5月、7月）償還を行い、その間の利息18,186千円を支払った。

基金別償還等内訳は次のとおり。

（単位：千円）

	26年度	償還合計額	貸付金残額
全国配合飼料供給安定基金	2,464,800	24,648,000	0
全国畜産配合飼料価格安定基金	556,800	5,568,000	0
全日本配合飼料価格畜産安定基金	5,978,400	59,784,000	0
合計	9,000,000	90,000,000	0

特別交付金交付事業においては、以下の特別交付金を交付した。

（単位：千円）

	特別交付金
全国配合飼料供給安定基金	18,803
全国畜産配合飼料価格安定基金	4,248
全日本配合飼料価格畜産安定基金	45,608
合計	68,659

④ 平成25年度通常補填財源貸付事業及び特別交付金交付事業

通常補填財源貸付事業においては、⑤の通常補填財源強化事業の実施により、3基金に貸し付けられた財源をもって、貸付残高13,460,010千円が2月に一括繰上償還された。

基金別一括繰上償還内訳は次のとおり。

(単位：千円)

	償還合計
全国配合飼料供給安定基金	3,850,400
全国畜産配合飼料価格安定基金	815,050
全日本配合飼料価格畜産安定基金	8,794,560
合計	13,460,010

特別交付金交付事業においては、以下の特別交付金を交付した。

(単位：千円)

	特別交付金
全国配合飼料供給安定基金	41,110
全国畜産配合飼料価格安定基金	8,702
全日本配合飼料価格畜産安定基金	93,897
合計	143,709

⑤ 通常補填財源強化事業

通常補填準備財産の運営基盤の強化を図るため、農畜産業振興機構の補助金（134億円）を受け、2月に各契約基金に貸付けた。

(単位：千円)

	貸付額
全国配合飼料供給安定基金	3,850,400
全国畜産配合飼料価格安定基金	815,050
全日本配合飼料価格畜産安定基金	8,794,560
合計	13,460,010

(2) 飼料穀物備蓄対策事業（公益目的事業2）

① 備蓄実施計画

国の飼料穀物備蓄計画に基づき、四半期ごとに生産局長の承認を得て備蓄実施計画を作成し、飼料穀物保管等事業を実施した。

② 飼料穀物保管等事業の実施

備蓄穀物 600 千トンの保管について、備蓄実施計画、備蓄穀物保管委託契約に基づき、備蓄受託者 22 者及び営業サイロ等 34 者により、備蓄用サイロ 975 千トンを含む所定の保管場所（全国延べ 103 箇所）において適正に保管した。

また、備蓄受託者が確保すべき通常在庫数量については、南米での大豆、とうもろこしの輸出数量の増大による船混み、台風及び海上の時化等による本船到着遅延等から一部緩和したものの、ほぼ所要の飼料穀物は確保された。

③ 備蓄穀物の貸付け

貸付けについては、平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までに備蓄穀物 128,950 トンの貸付けを実施した。この貸付けは、南米での中国向け大豆の輸出増による本船船混みに伴う出港遅延、及び冬場の荒天による海上の時化等の影響で、本船の到着遅延によるものである。

(3) 調査事業（公益目的事業3）

本事業については、飼料製造工場を対象に、飼料生産・出荷・在庫動向、工場渡価格、原料使用量、都道府県別生産量、都道府県別出荷先別出荷量等を毎月調査するとともに、飼料穀物の国際需給、価格、フレート等配合飼料に関連するデータを取りまとめ、「飼料月報」として毎月発行した。

4. 会議の開催

(1) 総会

- ① 第40回定時総会 平成26年6月25日開催
 - 第1号議案 定款の一部変更について
 - 第2号議案 通常補填財源貸付に係る業務方法書の制定について
 - 第3号議案 通常補填財源貸付に係る長期借入金の限度額について
 - 報告事項1 平成25年度事業報告及び収支決算について
 - 報告事項2 平成26年度事業計画書、収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みの変更について
 - 報告事項3 通常補填運営安定化支援対策事業実施要領の制定について
- ② 臨時総会 平成26年9月30日開催
 - 第1号議案 業務方法書の一部変更について
- ③ 臨時総会 平成27年3月25日開催
 - 第1号議案 業務方法書の一部変更について
 - 第2号議案 理事の報酬総額及び監事の報酬総額について
 - 報告事項1 平成26年度事業計画書及び収支予算書の変更について
 - 報告事項2 平成27年度事業計画書、収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みについて

(2) 理事会

- ① 第243回理事会 平成26年6月9日開催
 - 第1号議案 平成25年度事業報告及び収支決算について
 - 第2号議案 定款の一部変更について
 - 第3号議案 通常補填財源貸付に係る業務方法書の制定について
 - 第4号議案 通常補填財源貸付に係る長期借入金の限度額について
 - 第5号議案 通常補填運営安定化支援対策事業実施要領の制定について
 - 第6号議案 平成26年度事業計画書、収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みの変更について
 - 第7号議案 第40回定時総会の招集及び付議事項について
 - 第8号議案 役員在任年齢規程の一部変更について
 - 第9号議案 役員選考規程の一部変更について
 - 第10号議案 平成26年度第2四半期飼料穀物備蓄実施計画について
 - 第11号議案 平成26年度第2四半期の備蓄穀物の貸付限度数量について
- ② 第244回理事会 平成26年9月9日開催
 - 第1号議案 業務方法書の一部変更について
 - 第2号議案 臨時総会の招集及び付議事項について
 - 第3号議案 飼料穀物備蓄対策事業実施細則の一部変更について
 - 第4号議案 飼料穀物備蓄対策事業実施要領の一部改正について
 - 第5号議案 平成26年度第3四半期飼料穀物備蓄実施計画について
 - 第6号議案 平成26年度第3四半期の備蓄穀物の貸付限度数量について
 - 第7号議案 配合飼料異常補填交付金交付契約の変更について

報告事項	職務執行状況報告について
③ 第245回理事会	平成26年12月15日開催
第1号議案	平成26年度第4四半期飼料穀物備蓄実施計画について
第2号議案	平成26年度第4四半期の備蓄穀物の貸付限度数量について
④ 第246回理事会	平成27年2月6日開催
第1号議案	通常補填財源強化事業貸付金貸付規程の一部変更について
第2号議案	平成26年度事業計画書及び収支予算書の変更について
⑤ 第247回理事会	平成27年3月11日開催
第1号議案	平成27年度事業計画書、収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みについて
第2号議案	理事の報酬総額及び監事の報酬総額について
第3号議案	会計監査人の報酬について
第4号議案	業務方法書の一部変更について
第5号議案	臨時総会の招集及び付議事項について
第6号議案	平成27年度第1四半期飼料穀物備蓄実施計画について
第7号議案	平成27年度第1四半期の備蓄穀物の貸付限度数量について
報告事項	職務執行状況報告について

(3) 運営委員会

機構業務の円滑な運営及び推進を図るため、基金業務関係4回、備蓄業務関係4回、計8回の運営委員会を開催した。

5. 役員の異動

平成26年度において、役員に異動はなかった。

6. 事業報告の内容を補足する重要な事項

平成26年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はない。

< (参考) 主要業務処理事項 >

年月日	業 務 内 容
26. 3. 7	農林水産省生産局長より、平成 26 年度飼料穀物備蓄計画の策定の通知を受けた。
3. 14	農林水産大臣より、平成 26 年度飼料需給計画の策定の通知を受けた。
3. 17	農林水産省生産局長より、平成 26 年度第 1 四半期飼料穀物備蓄実施計画及び備蓄穀物の貸付限度数量の承認を受けた。
3. 19	農林水産省生産局長より、平成 26 年度飼料穀物備蓄対策事業費補助金の割当内示を受けた。 割当額 142, 123 千円
4. 1	(独) 農畜産業振興機構より、平成 26 年度畜産業振興事業に係る補助限度額等の通知を受けた。 補助限度額 4, 845, 050 千円
4. 4	農林水産省生産局長より、平成 26 年度配合飼料価格安定対策事業における異常補填積立金の額の決定通知を受けた。 生産局長が別に定める額 6, 230, 000 千円
4. 15~17	文野公認会計士により、平成 25 年度の決算に対する監査を受けた。
4. 22	監事村尾誠、小谷英穂により、平成 25 年度の決算に対する監査を受けた。
5. 1	農林水産大臣より、平成 26 年度飼料穀物備蓄対策事業費補助金の交付決定の通知を受けた。 補助事業に要する経費 142, 123 千円 補助金の額 142, 123 千円
5. 7	平成 26 年 3 月 31 日付で繰上償還された、通常補填財源貸付金 90 億円のうち 45 億円を、銀行へ借入金の返済をした (第 17 回)。
5. 22	平成 25 年度第 4 四半期に係る特別交付金 113, 168 千円 (25 年度未払金計上分を含む) を交付した。
6. 3	(独) 農畜産業振興機構より、平成 26 年度飼料穀物備蓄対策事業補助金交付決定の通知を受けた。 補助対象経費 2, 462, 573 千円 補助金の額 2, 462, 573 千円
6. 4	運営委員会 (基金・備蓄) を開催した。
6. 9	第 243 回理事会を開催した。

年月日	業 務 内 容
6.13	農林水産省生産局長より、平成26年度第2四半期飼料穀物備蓄実施計画及び備蓄穀物の貸付限度数量の承認を受けた。
6.25	第40回定時総会を開催した。
6.27	農林水産大臣より、平成26年度飼料穀物備蓄対策事業費補助金の概算払（第1四半期）として27,486千円を受領した。
6.27	（独）農畜産業振興機構より、平成26年度飼料穀物備蓄対策事業補助金の概算払（第1四半期）として574,876千円を受領した。
7.4	平成26年3月31日付で一部繰上償還された通常補填財源貸付金90億円のうち45億円を、銀行へ借入金の返済をした（第18回）。
7.22	平成26年度第1四半期に係る特別交付金43,124千円を交付した。
8.14	（独）農畜産業振興機構より、平成26年度飼料穀物備蓄対策事業補助金交付決定の変更及び追加交付決定の通知を受けた。 補助対象経費 2,464,027千円 補助金の額 2,464,027千円
9.8	運営委員会（基金・備蓄）を開催した。
9.9	第244回理事会を開催した。
9.11	農林水産大臣より、平成26年度飼料穀物備蓄対策事業費補助金の概算払（第2四半期）として35,531千円を受領した。
9.25	農林水産省生産局長より、平成26年度第3四半期飼料穀物備蓄実施計画及び備蓄穀物の貸付限度数量の承認を受けた。
9.29	（独）農畜産業振興機構より、平成26年度飼料穀物備蓄対策事業補助金の概算払（第2四半期）として583,739千円を受領した。
9.30	平成26年度配合飼料異常補填交付金交付契約の数量変更の承認を受けた。
9.30	3契約基金から、平成26年度異常補填積立金の上期分として3,066,514千円が納付された。
9.30	臨時総会を開催した。

年月日	業 務 内 容
10. 3	通常補填財源貸付金 45 億円の返済を受け、銀行へ借入金の返済をした（第 19 回）。
10. 22	平成 26 年度第 2 四半期に係る特別交付金 67, 195 千円を交付した。
10. 22～23	文野公認会計士により、平成 26 年度の決算に対する中間監査を受けた。
12. 12	運営委員会（備蓄）を開催した。
12. 15	第 245 回理事会を開催した。
12. 24	農林水産省生産局長より、平成 25 年度第 4 四半期飼料穀物備蓄実施計画及び備蓄穀物の貸付限度数量について承認を受けた。
12. 24	（独）農畜産業振興機構より、平成 26 年度飼料穀物備蓄対策事業補助金の概算払（第 3 四半期）として 577, 614 千円を受領した。
27. 1. 7	通常補填財源貸付金 45 億円の返済を受け、銀行へ借入金の返済をした（第 20 回）。
1. 22	平成 26 年度第 3 四半期に係る特別交付金 54, 039 千円を交付した。
2. 2	（独）農畜産業振興機構より、平成 27 年度配合飼料価格安定基金運営円滑化等事業（配合飼料価格安定基金運営基盤強化事業）の補助限度額等の通知を受けた。 補助限度額 13, 460, 010 千円
2. 3	運営委員会（基金）を開催した。
2. 6	第 246 回理事会を開催した。
2. 9	（独）農畜産業振興機構より、通常補填財源強化事業貸付金貸付規程の一部変更の承認を受けた。
2. 16	（独）農畜産業振興機構より、平成 26 年度配合飼料価格安定基金運営円滑化等事業（配合飼料価格安定基金運営基盤強化事業）補助金交付決定及び概算払通知を受けた。 補助対象経費 13, 460, 010 千円 補助金の額 13, 460, 010 千円
2. 25	（独）農畜産業振興機構より、平成 26 年度配合飼料価格安定基金運営円滑化等事業（配合飼料価格安定基金運営基盤強化事業）貸付実施計画の承認を受けた。

年月日	業 務 内 容
2. 26	(独) 農畜産業振興機構より、平成 26 年度配合飼料価格安定基金運営円滑化等事業 (配合飼料価格安定基金運営基盤強化事業) 補助金の概算払いとして 13,460,010 千円を受領した。
2. 26	3 契約基金へ平成 26 年度通常補填財源強化貸付金 13,460,010 千円を貸し付けた。
2. 27	3 契約基金から、平成 25 年度通常補填財源貸付金 13,460,010 千円の一括繰上償還を受け、銀行へ借入金の一括返済をした。
3. 9	農林水産省生産局長より、平成 27 年度飼料穀物備蓄計画の策定の通知を受けた。
3. 10	運営委員会 (基金・備蓄) を開催した。
3. 11	第 247 回理事会を開催した。
3. 13	農林水産大臣より、平成 26 年度飼料穀物備蓄対策事業費補助金の交付決定変更の通知を受けた。 補助事業に要する経費 63,017 千円 補助金の額 63,017 千円
3. 17	農林水産大臣より、平成 27 年度飼料需給計画の策定の通知を受けた。
3. 18～19	文野公認会計士により、平成 26 年度の決算に対する期末監査を受けた。
3. 23	平成 25 年度通常補填財源貸付金 13,460,010 千円の一括繰上償還に伴う特別交付金 20,688 千円を交付した。
3. 25	臨時総会を開催した。
3. 27	(独) 農畜産業振興機構より、平成 26 年度飼料穀物備蓄対策事業補助金の概算払 (第 4 四半期) として 29,864 千円を受領した。
3. 31	3 契約基金から、平成 26 年度異常補填積立金の下期分として 3,163,486 千円が納付された。